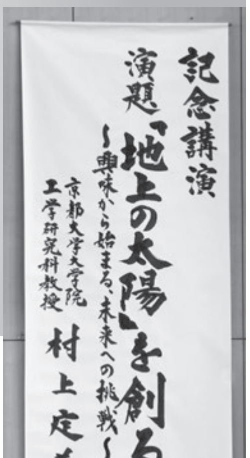
水泳部　3年連続全国大会出場

夢へ躍進 青春の夏 近畿総体 2026
つなげ みんなの想い 輝け 近畿の舞台で
令和8年度全国高等学校総合体育大会
第94回日本高等学校選手権水泳競技大会
会場：インフロニア草津アクア

第94回日本高等学校選手権水泳競技大会
（R8年8月13～16日滋賀県草津市）
女子50m自由形・100m自由形
村上　遥香（3年）

淡路三原高等学校創立20周年記念式典・記念講演挙行

（R8年5月1日）



講師：村上　定義 氏（三原高校35回生）
京都大学 大学院 教授

淡路三原高校
同窓會報

発行所
兵庫県南あわじ市
兵庫県立
淡路三原高等学校
同窓会
印刷所　松栄印刷

住所の変更があった場合は必ず同窓会本部へご連絡下さい。

ご挨拶

同窓会長
太田　良一
（三原　二十一回生）

爽秋の候、同窓生の皆さまには、ますますご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

まずは、昨今の中東情勢の緊迫化に端を発し、世界経済が不安定さを増す中、私たちのくらしにも物価高騰などの影響が及んでおりますこと、心よりお見舞い申し上げます。社会全体が揺らぎを抱える今だからこそ、互いを思いやり、支え合う同窓の絆の大切さを改めて感じています。

さて本年5月1日に、県立淡路三原高等学校は創立20周年という節目の年を迎え、創立記念式典が厳粛かつ盛大に挙行されました。まず、一方の県立三原高校の歩みを振り返れば、大正８年に開設された不動りつ裁縫塾にまで遡り、幾度もの変遷を経て、昭和23年に県立三原高校となり、平成21年の閉校まで90年にわたる歴史があります。一方、県立志知高校は、昭和23年に県立洲本高校定時制の緑・西淡・南淡の各分校として始まり、昭和48年に三原西分校に統合され、昭和50年に県立志知高校として独立し、平成21年の閉校まで61年の歴史を刻みました。この両校が平成19年４月に統合され、新生・県立淡路三原高校が誕生しました。両校が長い年月の中で育んできた教育理念は、確かな精神として、本校にしっかり受け継がれ、今日の豊かな学びの礎となっています。

現在、淡路三原高校で特色的に行われている「総合的な探究の時間」、いわゆる「Ｓａｇａｓプロジェクト」は、地域課題の解決を軸に据え、生徒自らが問いを立て、仲間と協働し、試行錯誤を重ねながら学びを深める取り組みとして大きく前進しています。その究極の目的は、生徒一人ひとりが自分らしさと将来の生き方を見つめ、実社会で生きる力を育むことにあります。

20年という節目を迎えた今、この探究の精神こそが淡路三原高校の未来を形づくる柱であると確信しています。本校はこれまで、多くの卒業生を地域へ、そして社会へと送り出してきました。彼らが示してきた誠実さ、逞しさ、挑戦する姿勢は、まさに本校の教育が育んだ宝であり、同窓会としても大きな誇りであると思っています。

以上の状況から、同窓会では、今年度も「魅力ある、豊かな学校づくり」に少しでも寄与したいと考え、「創立20周年記念誌の作成」、「探究校外学習（Ｓａｇａｓツアー等）の実施」を中心に、支援を強力に進めてまいります。同窓会々員の皆さまには、引き続きご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

ところで淡路三原高校同窓会ホームページですが、平成29年に立ち上げ、令和２年まで更新されていたものの、令和３年以降、更新が途絶えていました。情報発信が重要な時代にあって、この不手際は弁解の余地もなく、深くお詫び申し上げる次第でございます。コロナ禍でのコミュニケーション不足と私の「先生への任せっぱなし」による当事者意識の欠如が原因であり、猛省しております。現在、再立ち上げに向けて、新たなメニューを加えながら10月頃を目途に準備を進めており、より充実した情報発信に努めてまいりたいと考えています。どうか改めて、ホームページを閲覧していただければ幸いでございます。

最後になりましたが、同窓会々員各位のご健勝と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、今後とも淡路三原高校同窓会（黎明会）への変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

校長　大塚　剛啓

同窓会会員の皆様には、平素から本校教育活動に対するご理解・ご支援を賜り心より感謝申し上げます。

令和8年度は淡路三原高校が創立して記念すべき20周年となります。本校では「地域に信頼される学校づくり」「生徒の可能性を伸ばす教育」をテーマとし、教育活動を行っています。生徒たちは、基本的生活習慣の確立を基礎とし、授業、部活動、探究活動、学校行事などに一所懸命取り組んでくれています。

5月1日の創立20周年記念式典では、三原高校35回生で京都大学教授 村上定義様にお越しいただき、『「地球の太陽」を創る～興味から始まる、未来への挑戦～』と題して、記念講演を行いました。今話題の核融合の研究についてのお話しでしたが、この技術が実用化されると、エネルギー問題が一気に解決されるという夢の技術です。母校の先輩が最先端の研究で活躍されているお話しをお聞きし、生徒たちも大きな刺激をうけました。

また、創立20周年記念誌を発行し、統合以来20年間の学校の教育活動をまとめました。（学校のホームページからご覧いただけます）この記念誌は、同窓会からの予算的な支援を受け発行しました。改めて感謝を申し上げます。

本校の生徒は部活動に積極的に取り組んでくれています。男子バレーボール部が県総体においてベスト16入りし、近畿大会に出場しました。また、この県総体での活躍が認められ、３年の西山青磨君が国民スポーツ大会少年男子６人制の兵庫県代表選手に選出され、活躍してくれました。

また、水泳部３年の村上遥香さんが50ｍ自由形と１００ｍ自由形の２種目で全国総体に出場しました。

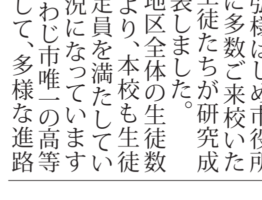
昨年度「サイエンスコース」から改編された「文理探究科」が２年目を迎えています。２年生では新たな学校設定科目として「読解インテグラル」という、日本語と英語の資料を読み、社会問題などのテーマについて探究を行うという授業があります。大阪大学の中村征樹教授のご協力で、興味深いテーマを設定し、生徒たちは新しい探究活動にチャレンジしています。また、夏休みには「Ｓａｇａｓツアー」を実施し、東京、関西、広島の三方面で、大学や企業でのワークショップ、施設見学などを行い、生徒たちは普段あまりすることのない未知の体験をして、大きな刺激を受けて帰ってきました。

また、本校の探究活動の取組の一つとして、南あわじ市役所の皆様にご協力いただき、生徒が地元南あわじ市の課題を見つけ、それに対する解決策を研究し、市役所に提言する取組を行っています。７月には、南あわじ市長守本憲弘様はじめ市役所の方々に多数ご来校いただき、生徒たちが研究成果を発表しました。

淡路地区全体の生徒数減少により、本校も生徒の募集定員を満たしていない状況になっていますが、南あわじ市唯一の高等学校として、多様な進路希望を持つ生徒の進路実現に向け、教職員、生徒共々毎日の教育活動に一所懸命取り組んでいます。また、コロナの影響もなくなり、生徒が学校外で活動する場面が増え、地域の中で高校生が生き生きと活躍する姿を見せてくれています。

南あわじの伝統校として、三原高校と志知高校の長い歴史と伝統を受け継ぎ、さらなる学校の発展に取り組んで参ります。

今後とも、同窓生の皆様からの本校に対するご支援をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



兵庫県立淡路三原高等学校

淡路三原高校同窓会のホームページ

https://dousoukai.site/awajimihara/

淡路三原高校のホームページからもアクセスできます。
http://www.hyogo-c.ed.jp/˜awajimihara-hs/

同窓会本部及び支部連絡先

本　部　六五六‐〇四六一
兵庫県南あわじ市市円行寺
三四五‐一
兵庫県立淡路三原高等学校
同窓会
電　話〇七九九(四二)〇〇四八(代)
ＦＡＸ〇七九九(四二)〇三一三
郵便振替口座
〇一一五〇‐五‐六八五七九

三原支部　六五六‐〇四八三
南あわじ市志知中島六六二
別　所　敬　二（三原22）
電話〇七九九(四二)三七七〇

南淡支部　六五六‐〇五〇一
南あわじ市福良甲
六二四‐四
阿　部　員　久（三原27）
電話〇七九九(五二)〇六五一

西淡支部　六五六‐〇六五一
南あわじ市伊加利一八四二
前　田　和　義（三原24）
電話〇七九九(三九)〇五六四

緑　支　部
六五六‐〇一六一
南あわじ市倭文土井三三一‐一
椿　　大　尚（三原37）

津名支部

洲本支部　六五六‐〇一〇一
洲本市納七〇七‐一
木　戸　清　隆（三原24）
電話〇七九九(二四)五九二四

神戸支部　六五六‐〇〇四六
神戸市中央区港島中町
三‐二‐一‐六エバグリーン
四‐六〇一
橋　田　之　宏（三原23）
電話〇七八(三〇二)二六四五

大阪支部　五六六‐〇〇〇一
大阪府摂津市千里丘
四‐九‐三八‐六〇二
阿　部　賞　久（三原27）
電　話〇六(六三八五)五八八二

京都滋賀支部
六〇六‐〇九〇四
京都市左京区松ヶ崎
柳井田町十一
庄　司　俊　作（三原23）

東京支部　一〇〇‐八一三六
東京都千代田区大手町一‐一‐一
パークビルディング　アンダーソン・毛利・友常法律事務所
鼎　　博　之（三原24）
電話〇三(三七五)三八一〇

奈良支部

東海支部　四六〇‐〇〇一二
名古屋市中区千代田三‐一三
一‐一三シティコーポ
千代田六〇五
阿　部　智　彦（三原24）
電話〇五二(三三二)二〇八三

支部だより

東京支部

支部長　鼎　博之

東京支部（ゆづるは会）は、６月６日（土）正午から、令和８年度の総会・懇親会を市ヶ谷の私学会館で開催しました。今年度は、会員の出席が32名、ゲストも含めると35名の参加となりました。淡路三原高校からは大塚剛啓校長先生にご参加いただき、さらに、太田良一同窓会長、また兵庫県東京事務所次長の越川博文様にもご参加頂きました。

総会では、大塚校長先生に来賓挨拶をお願いし、淡路三原高校が着々と地域の拠点校として、充実した教育活動がなされていること、新制淡路三原高校として20周年を迎え、20周年記念誌の発行をしたとのことで参加者に配布していただきました。また、普通科ではキャリア類型とアカデミア類型として、進路を意識した教育方針がとられていること、文理探究科では、総合的な探究の時間をとることに重点を置き、Sagasツアーとして東京、広島、関西地区で企業訪問や大学でワークショップを開催し、生徒の自発的な活動で単位が取得できるようにしていることが紹介されました。また伝統であるスポーツにも力を入れており、男子バレーボール部は県大会ベスト16に入り、近畿総体にも出場するなどの実績を残しており、文武両道に秀でるよう様々な工夫をしていることの紹介がなされました。

次いで、校長先生にお借りした校旗を掲げて恒例の集合写真の撮影を行いました。懇親会の冒頭、同窓会長の太田良一様（21回生）に乾杯の音頭をお願いしました。

兵庫県立淡路三原高等学校

太田様は、２０２５年の国勢調査結果をもとに、淡路三市合計で12万人を下回ったが、南あわじ市が４万１千人と三市の中で一番多い人口を抱えていることを紹介され、今後ともホームページなどで広報に尽力したいとご挨拶されました。

懇親会の場では、今回３月に卒業され、首都圏の大学に進学された中山天寧さんと藤本蒲乃珈さんに参加していただきました。若い参加者として、淡路三原７回生の齋藤勇樹さん、８回生の土井翔平さんも参加され、かなり若返りが図られたように思います。また、今回は淡路島のお土産品のたまねぎスープやカレーの他キャラクターグッズがあたるＢＩＮＧＯ ＧＡＭＥで懇親を図り、一気に淡路島の話題で盛り上がりました。

来年度も、本年と同じアルカディア市ヶ谷私学会館にて、２０２７年６月５日正午から開催を予定しております。さらに若い会員や女性会員の参加をお願いしたいと思います。今後とも、会員各位のご支援をよろしくお願いいたします。

東海支部

支部長　阿部　智彦

東海支部では、第14回淡路三原高校同窓会総会・懇親会を11月16日（日）13時より名古屋城が見渡せるＫＫＲ名古屋ホテルにて開催しました。参加者は、当初10名の予定でしたが、諸事情で３名の方が不参加となり、７名（最少参加者：２０１１年第２回の10名）で行われました。今回は、山形恵之氏（30回生）が２０１９年以来６年振りに参加され、元気な顔をみせてくれました。

総会では、支部長挨拶に続き、会計報告、校歌の斉唱が行われました。校歌斉唱は、いつものように荒内さんのオカリナ伴奏に合わせて全員で行いました。

懇親会では、会食をしながら会員同士で会話がはずみ、楽しいひとときを過ごしました。その後、各参加会員から近況報告が行われ、久しぶりに参加された山形さんの話に皆さん聞き入っていました。そのほか、何年かぶりに淡路に帰省して実家の状況を確認してきて「淡路も随分変わった。びっくりしたよ。」といった話をされる方もいました。東海支部の参加者は、ご高齢の方がほとんどですが、和やかで家庭的なところが大きな特徴です。「一度、参加してみようかな」と思われる方は、ぜひ参加してみてください。お待ちしております。

（追伸）

東海支部の事情で本部同窓会事務局と支部同窓会総会について連絡が取れていなかったことをこの紙面を借りて深くお詫び致します。誠に申し訳ありませんでした。

京都滋賀支部

稲井　公二

昨年の11月８日に京都御所近くのおおたや夷川店で支部同窓会を開催いたしました。当日15名の参加があり、久しぶりの再会となった顔ぶれや、年齢が離れていてもクラブ活動や親兄弟などを通じた思わぬ接点が見つかるなど、和気あいあいとした雰囲気で、高校時代の思い出や近況報告などで、楽しい時間を過ごすことができました。出席していただいた大塚校長からはサイエンスコースへの改変などの学校の近況を、太田同窓会長からは福良学や諭鶴羽山へのアサギマダラ飛来など郷土の歴史と自然についてお話しいただきました。さらには出席者から農業のことなど硬軟取り混ぜた話で大いに盛り上がりました。京都滋賀地区には卒業後すぐに進学・就職された方も多くおられ、若い方にも参加しやすい会を目指しておりますので、是非参加をお願いします。

当支部では数年前からインターネットの活用を進めており、ホームページを開設して、支部同窓会の開催案内、会員が関係する行事、南あわじ市の情報などを発信しております。支部からの一方的な発信にとどまらず、会員の集まりの案内や情報発信の場としてもご活用ください。支部専用のメールアドレスを公開しております。ホームページへの掲載の依頼や連絡先の変更をはじめ、同窓会全般に関するお問い合わせも気軽にお寄せください。支部ホームページは「淡路三原高校　同窓会　京都滋賀」で検索できますのでご覧ください。

大阪支部

支部長　阿部　賞久

２０２６年６月30日梅雨の合間、晴れの朝に同窓会報の原稿をしたためています。私は今、大阪府摂津市の私立高校に勤めています。午前９時、明日から１学期期末テストが始まろうという日、校舎内は授業中のため静まり返っています。母校淡路三原高等学校も、同じ情景が想像されます。もう卒業して、半世紀以上が経つのに、今でも高校時代の思い出が、スライド写真でよみがえります。本当に一生懸命な、かけがえのない瞬間だったのだと、感じられます。

同窓会大阪支部の活動は、年に数回卒業学年の近い方との懇談・懇親を図りながら、総会開催に向けて思案中です。前回のように、神戸支部・京滋支部との合同で開催するのか、案内の仕方はどうするべきか、どの程度の年代に案内するのか、若い卒業生を集めるにはどうするか、とか頭を悩ませています。同窓会運営は、年々難しくなっているような気がしますが、悩んでいるだけではダメなので、もっとしっかりとした支部組織づくりに頑張るつもりです。そして、近いうちに支部総会を開催いたします。大阪府内にお住まいの卒業生のみなさん、近隣にお住まいの卒業生のみなさんに、お声がけをしますので、どうか宜しくお願い致します。

同窓会大阪支部の活動にご興味のある方は、阿部賞久（０９０・３６５４・３７２７）までご一報のほど、どうか宜しくお願い致します。

結びに、母校・淡路三原高等学校の益々の発展と、同窓会の隆盛、同窓生のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。暑い夏ですが、元気で乗り切りましょう。

神戸支部

支部長　橋田　之宏

毎年この時期になると頭を悩まされるのが支部だよりの投稿。というのも、活動内容が代わり映えせず新たな報告事項がありません。淡路島に近く会員数は多いものの、逆に支部のアイデンティティが希薄となり活動が低調なのが支部の悩み。

久しぶりに開催した２０１７年の総会は、23年ぶりということもあり55人に参加していただきました。しかしその２年後には30人。数の上では多いと言えるものの参加率としては低い。満を持しての三支部合同の前回に期待しましたが神戸支部参加者は16人でした。

神戸支部の会員数は１７００人。全員を対象にすると郵送料だけでパンクしてしまいます。最初こそ全員に連絡しましたが、その後は出欠含め何らかの音信があったメンバーに限定せざるを得ません。それでも、メール、ＦＡＸ含め６２０名ほどとなり、郵送での案内はコスト・人的負担ともに結構大変な作業です。

なので、顔を合わせる総会は是非継続したいのですが、開催頻度は落とさざるを得ません。その代わり、気楽にオンライン上で情報共有、相互の近況報告ができる環境づくりを進めたいと思います。そのためには、一度途絶えてしまったホームページをぜひ再開したいのですが、高齢者の多い支部役員には負担が大きいので、この分野が得意な方にぜひご協力をお願いしたいと思っています。

オンライン準備の第一歩として支部連絡用アドレスを設けました。神戸支部会員の皆様と何らかのパイプができれば幸いです。何でも結構ですので、ご一報をお待ちしています。

awajimihara.kobe@gmail.com

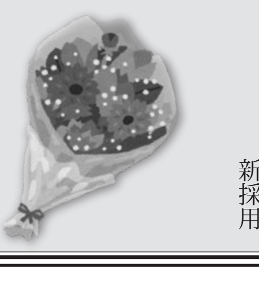
母校職員異動

離任された先生

事務長　羽坂　公孝　洲本高等学校へ
英語　黒田　陽子　洲本高等学校へ
地歴公民　川﨑　さおり　洲本高等学校へ
理科　米谷　真由美　洲本高等学校へ
保健体育　宇都宮　靖人　洲本高等学校へ
国語　島津　楓　加古川南高等学校へ
理科　立川　広大　県立伊丹高等学校へ
英語　片山　茉歩　加古川東高等学校へ
数学　小林　迪弘　広島県立福山工業高等学校へ
数学　稲岡　快旺　東播磨高等学校へ
事務員　山本　理衣　あわじ特別支援学校へ
事務員　佐古　諒　洲本実業高等学校へ

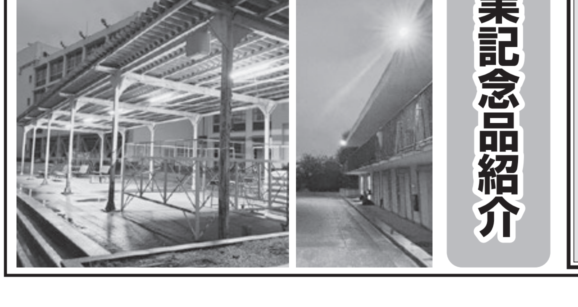
着任された先生

事務長　田中　恵理子　神戸鈴蘭台高校より
英語　金城　由美子　洲本高校より
保健体育　増田　光哉　洲本高校より
理科　多田　知史　洲本高校より
地歴公民　松井　慎太郎　洲本高校より
国語　下浦　裕次郎　新採用
理科　小濵　正好　家島高校より
英語　榎本　静香　津名高校より
事務員　和田　進司　新採用



十七回生卒業記念品紹介

淡路三原高校十七回生の皆様より卒業記念品として、部室前とパーゴラ下に照明設備を寄贈していただきました。部活時や部活終了後の下校時に生徒たちが安全に活動や通行ができるようになりました。大切に使わせていただきます。ありがとうございました。



活躍する同窓生

齋藤　千明　さん　淡路三原７回生

このたび、母校・淡路三原高校の同窓会報に寄稿する機会をいただき、大変嬉しく思います。

２０１６年に淡路三原高校を卒業した淡路三原７回生の齋藤千明と申します。

高校卒業後は大阪経済大学へ進学し、その後インフラ企業の秘書部として勤務しました。その中で「生まれ育った淡路島に貢献したい」という思いから２０２２年から1年間、観光大使 "第42代クイーン淡路" として全国各地で淡路島のPR活動に取り組んできました。

現在は一次産業の振興を目指しティヨル株式会社を立ち上げ、南あわじ市の玉ねぎを活用した化粧品開発や植物の成分を活用する独自の機械・研究開発に取り組んでいます。

そのような私がなぜ起業に至ったのか？なぜ玉ねぎを化粧品に？そんなハテナにお答えしながらお話させていただきます。

●高校時代

高校時代の私は人前に出ることが苦手でコンビニにも1人で行けないようなTHE思春期な性格でした。当時はまさか自分が起業するとは想像もしていませんでした。高校で出会った仲間とは今でも月に一度食事をするなど交流が続いており、一生付き合える友人に出会えたことを母校に感謝しています。

●大学時代、起業のきっかけ①

大学では経営学を学び、卒業論文では以前よりメディアで淡路島を目にする機会が増えたことに興味を持ち「淡路島の地域ブランディング」について研究しました。当時南あわじ市役所にも伺い、市の現状や地域のPR戦略などについて直接お話を聞きました。そこで淡路島には素晴らしい魅力がたくさんある一方で、人口流出や地域産業などの課題を抱えていることを知り、初めて「いつか地元に貢献したい」と思うようになりました。

●社会人、起業のきっかけ②

大学卒業後は、大阪市内のガス会社で秘書部として勤務し、ガスという人々の暮らしを支える仕事の責任とやりがいを感じながら、経営陣の近くで会社経営や組織づくりなど多くを学ばせていただきました。一方で、地元への思いは次第に強くなり、会社員をしながら観光大使に応募。第42代クイーン淡路として全国各地で淡路島のPR活動を行いました。様々な地域を訪れ、淡路島の魅力を自分の言葉で伝える中で改めて気付いたことがあります。それは淡路島には私たちが思っている以上に誇らしい魅力があるということです。国生み神話に始まる歴史・文化、豊かな農水産物、温かな人々。外から淡路島を見ることで、普段当たり前だと思っていたものが、実はとても特別なものだったと感銘を受けました。そして私は益々地元愛が深まり「いつか淡路島に関わる事業をしたい」と考えるようになりました。

●父との別れ、そして起業

そんな矢先、父が亡くなり我が家は農業を廃業。この時、「農家が一軒なくなる」ことを自分ごととして痛感しました。日本の農業は担い手不足や高齢化など、多くの課題を抱えています。同じように廃業する農家が増えれば、一次産業そのものが衰退してしまう…そんな強い危機感を抱くきっかけとなりました。私は農家の娘ですが、残念ながら農業のプロではありません。そこで、農業の課題に別の角度からアプローチできないかと考え、２０２３年にティヨル株式会社を創業しました。

●もったいない精神から生まれた玉ねぎ化粧品

最初に取り組んだのが「農業×美容」です。規格外玉ねぎを見て「まだ使えるのに廃棄なんてもったいないなぁ…」と感じたことがきっかけでした。そこで玉ねぎの美容効果を調べる中で、抗酸化成分「ケルセチン」に着目。「これを美容に活かせないか。」と大学と研究開発を重ね、南あわじ市の規格外玉ねぎを活用した化粧品ブランド「NIONE（ニオーネ）」が誕生しました。発売後は全国の百貨店を中心にオニオンビューティーを布教すべく販促活動を行ってきました。現在は化粧品開発をきっかけに京都大学をはじめとする研究機関と連携し、「捨てられる植物に新たな価値と可能性を。」と掲げ、植物の成分を活用する機械・原料開発に取り組んでいます。

●これから

私が大切にしている哲学の一つに近江商人の「三方よしの精神」があります。「売り手よし、買い手よし、世間よし。」事業を通じて、自分たちだけの利益ではなく、関わる人や地域、社会にとっても価値を生み出すことが事業には大切だと考えています。起業してまだ3年。思うようにいかないことや失敗もたくさんあります。それでも、事業を通じて地域の方々や応援してくださる方々と出会う中で、「社会や地域の活性化に貢献することが自分の使命である」という考えに至りました。これから先、どんな困難や壁にぶつかるか分かりません。それでも、この道こそが自分の人生の使命だと信じ、支えてくださる方々への感謝を忘れず、信念を持って歩み続けたいと思っています。先日、経済産業省が主催する女性起業家ビジネスコンテスト「LED関西」にて10名に選出いただきました。いただいたご縁と経験を力に変え、これからも一つひとつの出会いを大切にしながら、南あわじから世界へ挑戦していきます。

最後に、同窓生の皆様のこれからのますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。またいつか淡路島でお会いできる日を楽しみにしております。

▲経済産業省主催ビジネスコンテスト「LED関西」にて
（右から3人目が齋藤さんです）

17回生の皆さんへ

～Moon Shotのその先へ～

17回生学年主任　宇都宮　靖人

淡路三原高校17回生の皆さん、卒業から約半年、それぞれの生活に慣れ始めている頃でしょうか。皆さんを送り出した私も、折に触れて17回生のことを思い出しています。

なかでもよく思い出すのは、卒業式の日のことです。あの日の空気、体育館に響いた歌声。とりわけ答辞は、これまで数えきれないほど卒業式を見送ってきた中でも、一番と言っていいほど心に残るものでした。17回生の卒業式は、私にとって特別なものでした。

あの日の思いを映すように、卒業アルバムの表紙には、月から地球を見上げる絵を選びました。皆さんが月面に立ち、歩んできた場所を振り返っている、そんなイメージです。高校の三年間は、遠く感じる目標に向かって手を伸ばし続けた日々だったと思います。うまくいったことも、いかなかったことも、今の皆さんを形づくっているはずです。

体育大会のデコレーションでは、難しいと言われる立体に挑戦してきましたね。完成して立ち上がった瞬間の感動はもちろんですが、本当に大切だったのは、そこに至るまでの時間だったのではないかと思います。仲間と意見をぶつけ合い、ときにはけんかになったこともあったかもしれません。その悩みや工夫を重ねた時間こそ、皆さんにとってかけがえのないものだったはずです。星野リゾートでの修学旅行も工夫を凝らした文化祭も最高の時間でしたね。

そうして本気で向き合う皆さんの姿を見ながら、私自身も、これまでの歩みを振り返るようになりました。うまくいかなかったことのほうが多かったように思います。それでも、そのときそのときを本気で過ごしてきたことは、必ず今につながっています。人生に無駄な経験などないのだと、皆さんと過ごした三年間で改めて感じました。

そんな三年間を経て、夢を叶えた人も、思い描いていたのとは違う道を歩み始めた人もいると思います。それでも、新しい環境で出会う人や経験が、皆さんに新しい発見や喜びを与えてくれていることを願っています。

とはいえ、これから先も、迷ったり立ち止まったりすることがあるかもしれません。そのときは、一人で抱え込まず、誰かに相談しながら、自分のペースで進んでください。

そんな皆さんの未来がどんな形になっていくのか、まだ誰にも分かりません。けれど、17回生として過ごした三年間が、その土台の一つになっていることを、私は誇りに思っています。

そして、皆さんを支えてくださったご家族や、関わってくださったすべての方々にも、この場を借りて感謝申し上げます。

皆さんが月面に立って、地球を見つめたときのように、これからも自分の足で立った場所から、遠くの目標に向かって手を伸ばし続けてください。皆さんの挑戦を、これからもずっと応援しています。

さて、次はどの星を目指しましょうか。

創立20周年記念講演

五月一日（金）午後

講師：村上　定義　氏　三原高校35回生　京都大学大学院教授

演題：「地上の太陽」を創る～興味から始まる、未来への挑戦～

創立記念式典に続き、記念講演会が行われました。講師は三原高校三十五回生の村上定義氏。村上氏は、高校卒業後、広島大学、同大学院に進まれた後、核融合科学研究所助教等を経て、現在は京都大学大学院工学研究科教授として教鞭を執られています。

講演では「『地上の太陽』を創る～興味から始まる、未来への挑戦～」と題し、最先端の研究内容から後輩たちへの熱いメッセージまで、多岐にわたるお話をされました。村上氏が取り組まれているのは、太陽のエネルギー源である核融合反応を地球上で再現する「地上の太陽」の実現です。核融合は海水中に豊富に含まれる重水素を燃料とし、発電過程で二酸化炭素を排出しないため、資源枯渇や地球温暖化を解決する夢のエネルギーとして期待されています。しかし、その実現には一億度という超高温の「プラズマ」を磁場で安定して閉じ込める必要があり、極めて高度な制御技術が求められます。

村上氏の研究グループは、この難題に対し、気象予報などで使われる「データ同化」の技術を世界で初めてプラズマ制御に応用した革新的な「ASTI」システムを開発されました。このシステムはデジタルツインを用いてプラズマの状態を高精度に予測しながら制御するもので、大型ヘリカル実験装置（LHD）での実証実験において、電子とイオンの温度を同時に制御することに成功し、世界中から大きな注目を集めています。

現在はフランスで日本や欧米などが協力する「ITER（国際熱核融合実験炉）」の建設が進んでおり、二〇三〇年代の実験開始に向けて核融合開発は新たな段階に入っています。村上氏は、最先端の科学に挑む喜びを語るとともに、生徒たちへ「君たちの『なぜ？』という興味が、未来のエネルギーになる」という力強いエールを送っていただきました。世界を変える壮大な夢を追い続ける先輩の姿は、在校生にとって大きな刺激となり、自らの未来を考える貴重な糧となったはずです。

同窓会に入会して

17回生　長谷　音花

淡路三原高校を卒業してから、早くも半年が過ぎようとしています。卒業した直後は、毎日のように通っていた学校に行かなくなることが少し不思議に感じましたが、今では大学生活にも少しずつ慣れ、新しい環境の中で毎日を過ごしています。

高校生活を振り返ると、楽しかったことだけでなく、思うようにいかなかったことや悩んだこともたくさんありました。部活動では、仲間と一緒に練習に励み、試合に向けて努力する中で、協力することの大切さや、最後まで諦めずに取り組むことの大切さを学びました。また、クラスメイトや先生方と過ごした何気ない時間も、卒業してから振り返ると大切な思い出になっていることに気づきます。

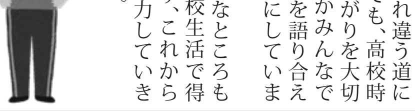
現在は大学で教育について学び、将来は体育の教師になるという目標に向かって勉強しています。高校生の頃には分からなかったことや、当時は当たり前だと思っていたことが、大学生になった今になって改めて大切だったと感じることも増えてきました。高校で学んだことや経験したことをこれからの大学生活や将来に生かしていきたいと思っています。

同窓会では、卒業後なかなか会うことのできない友人や先生方と再びつながることができると思います。これからそれぞれ違う道に進んでいく中でも、高校時代に築いたつながりを大切にし、またいつかみんなで集まって思い出を語り合えることを楽しみにしています。

まだまだ未熟なところもありますが、高校生活で得た経験を忘れず、これからも自分らしく努力していきたいと思います。

17回生　田村　櫂生

このたび、17回生同窓会幹事に選ばれ、とても光栄です。この良き伝統を受け継ぎ、責任を持って務めていきます。私たちの中学の3年間は、新型コロナウイルスの影響で多くのことが制限されてきました。しかし、高校に入ると制限も緩和され、友人と楽しく、濃い毎日を送ったことを昨日のことのように覚えています。高校卒業後は、お互い将来へ向けて新しい道へ進みました。私は、この淡路島で就職することを選び、社会人としての礼儀や節度を学ばせていただいています。小学生の頃からの夢をずっと追い続け、高校2年の冬から勉強を始め、進路指導の先生のサポートもあり、念願の仕事に就くことができました。お世話になった先生方には感謝しかないです。4月から働き出して、時間に追われる毎日に疲れる日もありましたが、休日に高校の友人と遊ぶと疲れも取れ、また1週間頑張ろうと思うことができました。そんな日々を過ごしているうちに、卒業してから約半年も経ち、成人式がだんだんと近づいていることを実感しています。17回生の仲を深めるため、高校の同窓会も計画しているので、みんなの成長している姿が楽しみです。私もこれから地域のために活躍できるように頑張っていきます。



令和7年度卒業生の進路状況

【国公立大学合格者数】

大学名	国公立大　計22名
北見工大	1名
東北大	1名
千葉大	1名
名古屋工大	1名
和歌山大	1名
岡山大	1名
広島大	3名
徳島大	6名
鳴門教育大	1名
香川大	1名
愛媛大	1名
大阪公立大	1名
兵庫県立大	1名
高知県立大	1名
名桜大	1名

【私立大学合格者数】

大学名	私立大学　計165名
城西国際大	1名
桜美林大	1名
東京理科大	1名
福井医療大	1名
愛知学院大	1名
豊田工大	1名
長浜バイオ大	1名
大谷大	1名
京都外大	1名
京都先端科学大	1名
京都産業大	7名
京都精華大	1名
京都橘大	2名
京都薬大	1名
同志社大	4名
同志社女子大	1名
佛教大	1名
立命館大	7名
龍谷大	6名
追手門学院大	5名
大阪学院大	2名
大阪経大	4名
大阪芸大	1名
大阪経済法科大	2名
大阪工大	1名
大阪商大	1名
大阪体育大	1名
大阪電気通信大	1名
大阪保健医療大	2名
関西大	6名
関西医大	1名
関西外大	4名
近畿大	9名
摂南大	3名
桃山学院大	2名
大和大	1名
関西学院大	3名
大手前大	2名
甲南大	7名
甲南女子大	4名
神戸学院大	6名
神戸芸術工科大	10名
神戸国際大	1名
神戸女学院大	1名
神戸女子大	7名
神戸薬大	1名
神戸親和大	2名
兵庫医大	3名
武庫川女子大	10名
流通科学大	2名
関西福祉大	1名
関西看護医療大	4名
神戸常盤大	3名
宝塚医療大	1名
奈良大	1名
岡山理大	1名
川崎医療福祉大	2名
環太平洋大	2名
福山大	1名
四国大	2名
徳島文理大	1名

【短期大学合格者数】

大学名	私立短大　計7名
大垣女短大	1名
大阪国際大短大	1名
大阪成蹊短大	2名
兵庫大短大	1名
大和大白鳳短大	1名
徳島文理大短大	1名

【専修・各種専門学校進学先】

兵庫県立総合衛生学院
京都歯科衛生学院専門
関西総合リハビリテーション専門
徳島穴吹カレッジ
大阪工業技術専門
大阪リゾート&スポーツ専門
神戸電子専門
平成淡路看護専門
清恵会医療専門
神戸医療福祉専門
神戸元町医療秘書専門
神戸動植物環境専門
東京工科自動車大学校
神戸ベルェベル美容専門
関西美容専門
神戸理容美容専門
ECCアーティスト美容専門
大原簿記専門神戸校
上田安子服飾専門
神戸ブレーメン動物専門
OCA大阪デザイン&テクノロジー専門

【就職先】

民間企業
BIGDAISHOWA株式会社淡路工場
株式会社神戸製鋼所加古川製鉄所
パナソニックエナジー南淡株式会社
有限会社ぴぃたぁパン
株式会社大栄衛生
新徳島建材株式会社
株式会社HERO自動車
淡路信用金庫
淡陽信用組合
パワーエステート株式会社
株式会社うずのくに南あわじ
株式会社森長組

公務員
淡路広域消防事務組合
伊丹市消防局
自衛隊

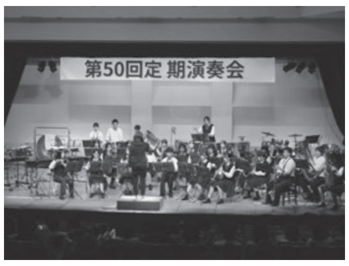
部活動紹介

放送部

部員数:10名／1年:5名･3年:5名

ボランティア同好会

部員数:22名／1年:14名･3年:8名

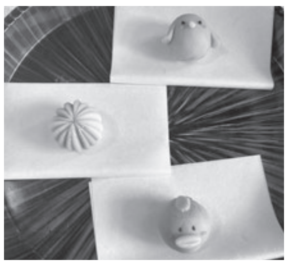


吹奏楽部

部員数:29名／1年:18名･2年:1名･3年:10名

メディア総合部

部員数:9名／1年:3名･3年:6名



茶華道部

部員数:24名／1年:13名･2年:5名･3年:6名

食物部

部員数:31名／1年:13名･2年:17名･3年:1名

自然科学部

部員数:5名／1年:1名･2年:2名･3年:2名

郷土部

部員数:13名／1年:5名･2年:4名･3年:4名

書道部

部員数:9名／1年:5名･2年:2名･3年:2名

美術部

部員数:9名／1年:3名･3年:6名

和太鼓部

部員数:8名／1年:2名･2年:1名･3年:5名

ダンス部

部員数:18名／1年:10名･2年:2名･3年:6名

卓球部

部員数:19名／1年:10名･2年:8名･3年:1名

陸上競技部

部員数:33名／1年:11名･2年:12名･3年:10名

男子バスケットボール部

部員数:23名／1年:4名･2年:7名･3年:12名

女子バスケットボール部

部員数:18名／1年:7名･2年:5名･3年:6名

男子ソフトテニス部

部員数:33名／1年:12名･2年:8名･3年:13名

女子ソフトテニス部

部員数:19名／1年:9名･2年:8名･3年:2名

野球部

部員数:31名／1年:10名･2年:13名･3年:8名

男子バレーボール部

部員数:12名／1年:4名･2年:4名･3年:4名

女子バレーボール部

部員数:15名／1年:4名･2年:7名･3年:4名

ソフトボール部

部員数:10名／1年:6名･2年:3名･3年:1名

水泳部

部員数:8名／1年:4名･2年:2名･3年:2名

サッカー部

部員数:27名／1年:3名･2年:10名･3年:14名

剣道部

部員数: 12名／1年:2名･2年:6名･3年:4名

柔道部

部員数:8名／1年:1名･2年:5名･3年:2名

熱戦

【全国大会】

■水泳部

第94回日本高等学校選手権水泳競技大会

女子50m自由形　村上　遥香　出場

女子100m自由形　村上　遥香　出場

【近畿大会】

■水泳部

第80回近畿高等学校選手権水泳競技大会

女子50m自由形　4位　村上　遥香

女子100m自由形　6位　村上　遥香

第10回近畿高等学校新人水泳競技大会

R8年10月10・11日出場予定

男子100m背泳ぎ　下野　真矢

男子50m自由形　下野　真輝

■陸上競技部

第59回近畿高等学校ユース陸上競技対校選手権大会

2年男子　砲丸投　山家　海裕　出場

1年女子　棒高跳　田村　咲花　出場

■バレーボール部男子

令和8年度近畿高等学校バレーボール優勝大会 兼 第79回近畿6人制バレーボール高等学校男女選手権大会 出場

第80回国民スポーツ大会近畿ブロック大会

6人制バレーボール競技 少年男子

＊兵庫県代表選手に選抜され出場

西山　青磨

■自然科学部

近畿大会出場（予定）

＊日程：令和8年11月

第46回近畿高等学校総合文化祭

出場部門：物理分野

発表タイトル：「窓ふきロボット制作に向けて」

【県大会】

■水泳部

第79回兵庫県高等学校選手権水泳競技大会

女子50m自由形　1位　村上　遥香

女子100m自由形　3位　村上　遥香

第69回兵庫県高等学校ジュニア選手権水泳競技大会

男子100m背泳ぎ　7位　下野　真矢

男子50m自由形　12位　下野　真輝

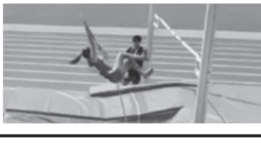
（近畿高校新人大会参加標準記録突破）

■陸上競技部

第78回兵庫県高等学校ユース陸上競技対校選手権大会

2年男子　砲丸投　3位　山家　海裕

1年女子　棒高跳　6位　田村　咲花



■バレーボール部男子

令和8年度兵庫県高等学校バレーボール優勝大会 兼 第79回兵庫県6人制バレーボール高等学校男女選手権大会

ベスト16